

南浦和中だより

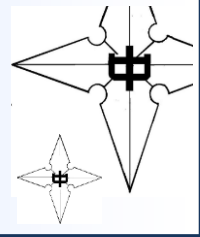
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



『君のハートはマリンブルー』

校長 おおこうちのりかず 大河内 範一

私はドッキリ系のテレビ番組がちょっと苦手だ。まあ、椅子のクッションに座った時に「ブー」と音が鳴るとか、テーブルに置いてあるコップの水を飲んでみたら実はお酢だったとか、ニヤニヤ笑って済むような内容ならまだいい。しかし、漫才コンビの片方が相方に解散を持ちかけて困惑させたり、怪しげな集団に無理矢理連れ去

られて恐怖を感じたりというようなレベルになると、心臓がドキドキするどころかバクバク高鳴ってしまう。最後にネタばらしをした場面で、騙された出演者が涙を流すような状況になってしまったら、もはや楽しさは微塵もなくなってしまう。そして、「人に不愉快な思いをさせるのは、やっぱりよくないな」と改めて感じる瞬間でもある。

イソップ寓話の『オオカミが来た』では、羊飼いの少年が「オオカミが来たぞー」と嘘をつき、何度も村人を騙しては喜んでいた。しかし、本当にオオカミに襲われて助けを求めたときには誰にも信じてもらえず、羊が全滅してしまったという悲惨な結末が待っているのだ。そして最終的には少年もオオカミに食べられてしまったという結末の本もあり、ちょっと恐ろしくなる。

また、グリム童話の『ハーメルンの笛吹き男』では、町に大繁殖したネズミに困り果てた町民が、ふらりと現れた男とネズミ退治の契約をする。男は笛を吹き、ネズミを川に誘導して見事に撃退したのだが、町民は約束を破り、男に報酬を支払わなかった。立腹した男が再び笛を吹いて歩き始めると、今度は町の子どもたちが男の後についていき、二度と帰って来ることがなかったという、薄気味悪いエンディングになっている。自分が幼い頃、この童話をテレビ番組で見たことがあるが、不気味な旋律に乗って子どもたちが次々に消えていくシーンを目の当たりにして、「約束を破ると、とんでもないことになってしまう」と、強烈に感じたことを覚えている。

とにかく、他者に対して不誠実なことをすると痛い目に遭うのである。また、他者に嫌な思いをさせる、不愉快に感じることを言う、マイナスな内容やネガティブな表現を繰り返し発言するというのも同様であろう。皆さんも世界各国の童話の教訓を生かし、仲間と一緒に生活しているときは、相手を思いやる気持ちを大切に、お互いが心地よく過ごせるように気を付けてほしい。

人の心を言い表すときに「空より青い」「海より深い」という言葉があるように、心が澄み切った状態は青系の色でイメージされることが多い。青は、空や海、そして水を連想させるため、爽快感がある。また、安心感や信頼感を与える色でもあるのだ。様々な事態が巻き起こる世知辛い世の中ではあるが、どんな時でも正直に、そして誠実に、マリンブルーのような美しい心で在りたいものだ。